

コラム・GO! GO! エレクトリシャン No.66

※(本紙ブログサイト《GO! GO! エレクトリシャン》にもぜひアクセスを!)
アクセス・キーワードは GO! GO! エレクトリシャンで

電気工事を学ぶ昨今の学生たちの資格への意識の在り処 「電気工事士＝国家資格」には必ずしもこだわらない!?

電気工事関連のコースをもつ電気・電子系専門学校はかつて、電気設備工事業界にとってまさに「人材輩出の宝庫」でした。しかし、ご承知のように、昨今では電気工事関連のコースをもっている専門学校自体が減りつつあり、あってもその定員は年々少なくなりつつあるのが現状です。

同様の傾向は工業高校でも、職業訓練校でもみられるようですが、それは結局、入学志望者自体が減っているからに他なりません。

その傾向は 2018 (平成 30) 年度をもって、半世紀以上の歴史をもつ東電協スクール(東京電気技術高等専修学校)が閉校したことなどからも分かります。

さらに今年度は新型コロナウイルスの影響によって、第二種電気工事士試験の筆記試験が中止になるなど、毎年5～6万人単位で有資格者が増えていた第二種電気工事士資格ブームすらも、ひょっとすると一頓挫する可能性があります(そうならないことを祈るばかりですが)。

と、そのように、電気工事士の志望者数に何かと陰りの目立ちつつある昨今ですが、都内のある専門学校の先生からは、さらに気になる話を聞きました。

最近では電気工事関連のコースに在籍している学生たちの間に、卒業すれば第二種電気工事士の資格を取ることにはできるものの、必ずしも電気設備工事関連の会社に勤めなくてもいいと考える学生が増えているというのです。

つまり、ただでさえ定員が減りつつあるなか、それでも電気工事関連のコースを選んで入学してきてくれ

た学生たちの間で、肝腎の電気工事関連の仕事が「第一志望ではない」とする考え方の学生が目立つようになってきているということなのです。

では、彼らは何を目指すのか? その先生が具体例として挙げてくれたのは、「スマートマスター」「家電製品アドバイザー」「家電製品エンジニア」などの民間資格を取って、家電メーカーや家電流通大手に就職しようとする学生が増えているという現実でした。

例に挙げた民間資格はすべて(財)家電製品協会の認定するものばかりですが、電化の時代が進捗するにつれ、あらゆる分野で高度な機能をもつ高級家電が増えていることから、これらの民間資格は大人気なのです。しかも、専門学校を卒業して第二種電気工事士資格ももっている学生は、高級家電やスマートハウスの営業アドバイザーにはピッタリの素養があります。

電気設備を構造的に理解しているため、単なる製品販売だけでなく、高級家電やスマートハウスを活用した「新たなライフスタイルの提案」も、勉強次第では軽々とこなせるようになることでしょう。

電気設備工事は電化生活に限らず、現代社会において不可欠の仕事ではありますが、どうしても縁の下の力持ち的なイメージが強い。

その点、消費者あるいはユーザーに直接、豊かな電化生活に向けたアドバイスのできる仕事はライフプランナー的な深みもあり、もっといえば華やかな部分もあります。

電気工事を勉強した若者たちが志望するのも無理からぬところがあるといえます。(以下、次号に続く)